

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念は入職時及び新年度初めにスタッフ全員に印刷をしたものを渡し、いつでも確認出来るようスタッフルーム内にも掲示している。また、更に重点目標として一年間のグループホーム目標もスタッフ全員で共有している	法人やホームの理念、「その人らしさに共感し、今の暮らしを継続していく」というホームビジョンなどを掲げ、また、今年度の重点目標として「ご本人、ご家族共に満足していただけるサービスの提供」を掲げ、その実践に取り組んでいる。また、4月の研修会の場で全職員の認識を新たに、日々の支援に反映している。利用者や家族にも利用開始時や面会時に理念やビジョンを伝えており、各ユニットの事務スペースに掲示いつでも見れるようにしている。職員は理念をよく理解しており利用者本位のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地区のゴミ拾い・草取り・消防訓練への参加を行っている。また、地域の祭り、保育園・小学校・中学校との交流を続けている	区費を納め、回覧板も回り、地域の情報を把握し、地区内の草取りやゴミ拾いなどの地域の奉仕活動や防災訓練にも参加している。地元保育園園児との交流や小学校4年生の総合学習の一環としてのふれあいなどが定期的であり、利用者も楽しみにしている。また、小学校の運動会や音楽会、地区のホタル観賞会・夏祭りなどの招待も受け、観覧席や駐車場の確保などの配慮をいただき、利用者も積極的に参加している。中学生や歌のボランティアの来訪があり、地域の方から野菜や果物などの差し入れを頂くこともあり、人々と交流する機会が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんとの交流を通じて、日々の様子を見てもらい理解を深めている。また、運営推進会議でも日々の支援方法を伝え、認知症状に対する理解や支援内容を共有してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、活動報告を行う以外にも、行事や今後の予定等活発な意見をいただき、事業所運営に生かしている	利用者、家族、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員などが出席し、原則、偶数月の最終水曜日10時30分から行っている。利用状況、活動報告、ホーム内研修報告、活動予定などを発表し委員から意見をいただき運営に取り入れている。また、利用状況の中で身体拘束廃止への取り組みの一つとして拘束の現況について開示している。地域の委員も利用者と積極的に交流したり、ホーム西側に桜の木を植えるなどの提案を市に投げかけていただくなど非常に協力的であるという。家族あても運営推進会議開催の案内をし、毎月送る手紙と一緒に運営推進会議の議事録も送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、長野市担当職員、地域包括担当職員にご出席いただき、日々の活動状況を伝えると共に、ご意見をいただいている	制度上や運営上の不明な点については主に地域包括支援センターに相談している。利用者の介護保険更新申請については家族の相談に応じ申請の代行をしたり、家族の同席もいただきながら市の調査に立ち合い、利用者の状況を正しく伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修を通じて、身体拘束廃止についての法人指針を確認し、身体拘束廃止への考え方や日々の支援の中での対応方法をスタッフ自身が考えられるようにグループワークを行っている	法人としての「身体拘束適正化に関する基本的な考え方」で身体拘束ゼロを謳い、年度の必須研修として拘束をしないケアを上げ、また、運営推進会議で「身体拘束実施状況」を開示し、管理者を委員長とする「身体拘束廃止推進委員会」も設置し、適正化に向け全職員が努めている。チャイムやセンサーの取り付けも行われていない。併設のショートステイ利用からホームの利用へ到った方もおり、入居当初から落ち着いて生活している方が多く離脱傾向の方は今のところ見られないという。	

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部内研修にて虐待についての理解を進めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で対象となる方がいないが、必要に応じて随時検討していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には契約書に沿って説明をして理解を得ているが、入居後に関しても、その都度必要に応じて家族へ説明をしたり、質問を受け付け理解してもらえるよう対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事への参加、運営推進会議参加を通じて気軽に話が出来よう配慮し、その中で要望を汲み取っていけるよう対応している	殆どの利用者は自分の意見や要望を伝えることができる。家族のホームへの来訪の頻度は毎日あるいは毎週という家族があり、県外に住む家族も年3回以上訪問している。家族が来訪した時には職員が利用者の状況を説明し、意見・要望、不満等を直接聞くようにしており、敬老会に家族を招待し一緒にお祝いもしている。また、遠方の家族とは電話等を利用して何でも伝えていただけるようにし、利用者の生活習慣等の理解・把握に繋げている。利用者の様子を書き綴った手紙を家族あてに送り意思疎通に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの様子を日々確認している。各係会や委員会活動では、スタッフが気軽に意見を出せるような雰囲気作りをしている	毎月、職場会議、グループホーム委員会、カンファレンス、学習会などの集まりがスケジュール化されており、職員の発言の機会も多く、意見が反映されるようになっている。管理者による個人面談が年2回行われ、処遇にも反映されるようになっている。職員のストレスチェックも希望者を対象に実施されており、法人の衛生管理担当部署により相談業務等が実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課実施後は面談を行い、スタッフそれぞれが感じていることや今後の取り組み等、話せる環境を作っている。それらの内容は全て代表者へ報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促したり、部内研修を実施している。部内研修においては、スタッフ全員が参加出来るようにしている。外部研修参加後も報告会を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問はないが、同業者と研修等で話す機会がある		

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を通じて本人や家族が不安と 思っている事や支援して欲しいと思っ ている事を確認し、家族と共に解消出 来るような支援内容を考えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を 傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談を通じて本人や家族が不安と 思っている事や支援して欲しいと思っ ている事を確認し、家族と共に解消出 来るような支援内容を考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見 極め、他のサービス利用も含めた対応に 努めている	入居前面談で何が必要か出来るだけ明 確にして、具体的な方法を家族へ提示す るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を 築いている	お互いに支えあって生活しているという 意識を持つよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	家族が本人の様子を知り、一緒に支援し ていけるように家族と情報の共有が出来 るよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支 援に努めている	家族や親戚、知人、近隣の方等気軽に 面会に来てもらい、お茶を飲みながらゆ っくりと過ごせるような環境づくりに努 めている。今まで行ってきた活動や行動 が続けていけるような支援も行っている	昔からの知り合いや近所の方、住んで いた地区の民生委員などの来訪を受け る利用者があり、職員もフロアや居室 でお茶の接待をしている。ホームを利 用する前からの馴染みの美容院や店に 家族と出掛ける利用者もいる。お正月 、お盆などの節目に一時帰宅する方も いるが、ホームがすでに終の棲家とな っていることから、自宅へ帰ることな く穏やかにホームで過ごす方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せず利用者同士が関わり合い、 支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活スタイルや体調を把握 し、スタッフが仲介に入りながら他者 と気軽に関わるが持てるよう対応して いる		

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になった後も、不安なことがあればいつでも相談してもらえるような体制である事を伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように意識し、言葉だけでなく表情や行動から常に要望を汲み取っていけるように対応している。日々の生活の中では選択出来るような機会も取り入れている	思いや意向を伝えられる利用者が多く、日常生活の中で聞くようにし、本人が望む生活を支援している。また、利用者ができることは継続しており、個人で新聞を購読したり、洗濯物置みなどを毎日行っている。利用者によっては、家族の方が「出来ない」としていたことが職員が利用者の思いを汲み取り働きかけることでできるようになったケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を家族に聞き取り、生活状況表への記入をお願いし、習慣や馴染みの暮らし方を理解し、続けていけるように心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック・食事・水分・排泄・活動状況等全て記録に残し、申し送りで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送りを通じて状況を確認し、アセスメントやモニタリングを行っている	介護計画は短期6ヶ月、長期12ヶ月で立案しており、毎月カンファレンスを行い、長期・短期の見直しに繋げている。利用者の状態変化や気づきなどを担当職員が事前にシートに記入・提出し(会議に参加できない職員もいるため)、観察記録、ケース記録に基づき計画作成担当者が作っている。介護計画の見直しの際には必ず家族から希望などを聞き取り作成し、ホーム来訪時には計画を説明している。職員配置はユニット固定でなく、職員は2ユニット全利用者のプランの要点を把握し支援に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は全て記録しており、申し送りやスタッフ伝達ノートによりケア内容等の対応方法の変更や情報共有が出来るようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や地域の方々の協力をいただき、臨機にサービス提供が出来るようにしている		

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動への参加や日々の散歩、地域の方々との面会を通じて協働出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を確認し主治医を決定している。定期的な受診以外は家族へ随時意向を確認している。大岡診療所が主治医となった場合は、初期や状態変化時にカンファレンスを行っている	本人や家族の希望に沿い利用前からのかかりつけ医を継続する方や協力医に変更された方などがある。協力医による訪問診療が一人の利用者に対して二週間に一度行われており、毎週火曜日には協力医がホームを訪れ、また、協力医を主治医とする利用者が多いことからその都度、相談や診察が可能で、利用者、家族、職員にも安心感がある。また、24時間対応で協力医及びその診療所の看護師と連絡を取ることができる。家族への窓口は生活相談員に一本化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はない。状況に応じて、大岡診療所へ連絡をし指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と随時連絡を取り合い、その状況を主治医へ連絡することで退院後のスムーズな支援につながるよう対応している。状況によって、入院先に面会に行き、状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には事業所で看取りを行っていることを伝え、その後状態変化時には意向の確認をその都度行っている。家族の希望で看取りを行った経過もある。終末期・看取りの部内研修を通じて、スタッフが共通の意識で対応出来るようにしている	契約時に重度化への対応や看取りについて説明をしている。ホームで可能なことと家族ができることを話し、医師、家族、職員で意思統一し看取り体制に入ることを説明している。万が一の場合、医師との連携も取れ、家族の宿泊も可能となっている。職員は「終末期や看取り」について勉強会などで学ぶ機会を持ち、また、直面した場合にもその都度意思統一をし不安がやわらぐようにしている。昨年度、2名の方をホーム内でお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置等職員間での伝達や対応確認をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜それぞれを想定した避難訓練を実施している。また、地域との協力協定を結んでいる	利用者も参加し定期的に昼間及び夜間想定訓練を行っている。訓練は消防署員参加の下行われ、毎回、防災器具や2階から1階へ降りる避難袋などを職員が実際に使用し体験している。年1回、法人全体の連絡網で「伝達訓練」を行い、各施設の救援体制の強化も図っている。開設以来、お願いしていた地域との防災に関する協力協定を結ぶことができ、地域の避難訓練にも管理者が参加し住民との連携強化を図っている。	

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応や言葉使いを意識している。また、本人の大切にしていることを理解していく努力をしている	今年度の重点目標として「ご本人、ご家族共に満足していただけるサービスの提供」を掲げており、原則として「すべてを受け入れる」という気持ちで、利用者本位の姿勢を崩さず一人ひとりの利用者を尊重し、また、理解しながら対応している。職員は研修会や勉強会を通じ、利用者の尊厳について共通の認識を持ちブレない支援につなげている。排泄や入浴などの異性介助については利用開始時に承諾を得、その時々の様子に合わせて利用者の意に沿うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でも「自分で決定すること」を大切に、選択出来るような働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣や体調(体力)を確認しながら、おおまかな日課はあるものの、日々ケア内容を調整している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力をしてもらい、季節に応じた衣類等の準備や、今までの活動を続けていけるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では嚥下や咀嚼の状態を考慮した内容で提供しており、行事食や外食を通じて食べる楽しみを感じてもらえるようにしている。下膳や台拭き等出来る事をお願いしている	開設以来入居している方も徐々に介助が必要となってきており三分の一ほどの利用者が介助を受けている。食事の形態も荒キザミやおかゆ等にする方もいる。利用者もできる範囲でお手伝いをしており食器の後片付けや台拭きなどを行っている。利用者にお手伝いをしていただきながらホットプレートなどを使ったおやつ作りも行われている。誕生日には外食をしたり、お寿司などをテイクアウトし地域交流スペースで楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	気温や活動状況、嚥下・咀嚼の様子や摂取量を把握し、記録に残し、提供量の調整を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施し、義歯は定期的に洗浄剤を使用して衛生面に注意している		

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、随時排泄支援をしている。使用物品もそれぞれの状況を考慮して随時検討している	排泄パターンを把握し、利用者の様子を見ながら声がけし、トイレでの排泄を基本としている。リハビリパンツとパット、布パンツとパットという方が多く、居室にポータブルトイレを持ち込んでいる方もおり、一人ひとりの利用者に合わせ不快感や不安を取り除くようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎日の連絡事項としている。それらの情報をもとに主治医と連絡を行いながらスムーズに排便が出来るように対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴・リフト浴・寝浴の3パターンの入浴形態があり、心身の状況を考慮して提供している。家族の面会や外出・外泊等の日程の妨げにならないよう入浴日は随時変更している	片方のユニットには機械浴槽、別のユニットには一般浴槽と2種類の浴槽があり、ユニットに関係なく利用者が希望する浴室で入浴していただいている。また、使い心地が良いことから1階ショートステイの寝浴を利用している方もいる。入浴の曜日は決まっておらず、利用者はゆっくりと昔話などをしながら入っており、しょうぶ湯なども実施し楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力等その方の状態を理解し、個々に対応している。室温や照明等環境も個々に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等で処方内容を確認出来るようにしているほか、内服変更時には家族に薬剤情報を提示して報告している。内服の際にはスタッフ2名で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や日々の活動でそれぞれが行いたいことが出来るようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には本人の希望を確認しながら外出をしたり、普段から家族と気軽に出かけてもらえるように働きかけている	天気の良い日は利用者の希望に沿い複合施設周辺の散歩に出かけている。また、地域からのお誘いを受け小学校の運動会や音楽会、ホテルの鑑賞会、夏祭りなどにも出掛けている。地域の人々も駐車場の確保やボランティアの配置などで非常に協力的であるという。外出時にはほぼ半数の利用者が車椅子対応であるというが、お花見、七夕見学、菊花展、ドライブなどに、少人数で何回も出かけるなどの工夫をし、出先でおやつなどを食べる楽しみも加え実施している。	

グループホームしんこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望している場合は家族の了承をいただき、本人管理をしてもらう場合もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所で家族や知人に電話したり、かかってきた電話を取り次ぐことをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るような掲示を行っている。動線を意識して環境を整えるようにしている	玄関には網戸が取り付けられ、居住空間も窓、ベランダのガラス戸、高い天窓からの明るい陽射しなど、全体がゆったりとしており開放感が感じられる。ユニットの間には地域交流スペースがあり、歌やリハビリ体操、ボランティアなどが来訪した時に2ユニット合同で使用されている。ホーム全体が床暖とエアコンで温度調節され快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	交流スペースや各ユニットのソファは自由に使用してもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェスト以外は全て持ち込みの品物であり、自宅で使用していたものを近くに置くようにしている	ベッドとチェストが備え付けられており、そのほかに自宅より収納ケースやテレビ、ソファ、テーブルなどが持ち込まれている。居室内に家族の写真や行事の時のスナップ写真などを貼られている方もいた。整理整頓が行き届いた居室もあり利用者の穏やかな暮らしぶりが窺えた。両ユニットの各居室入り口には利用者の手で書かれたお気に入りの字や絵、好きな図柄が表札代わりに掲げられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を意識して環境を整え、それぞれのユニットで生活されている方々の状況に応じて工夫している		